

## ウサビ読解 「おはなしルームのぶなの実編」

### ウサビ読解 「おはなしルームのぶなの実編 その1」

この日、町の図書館司書の登坂さんに呼ばれて、

エコミュージアムコアセンター創遊館の図書館へとやってきた中の人。

中の人 「登坂さーん、約束どおりウサビもってきましたよー。」



いつになく斬新な運ばれ方をしてきた桃色ウサビ。

登坂さん 「あ、ご苦労様～ 実はね、

今度 6月9日(土曜日)に「ぶなの実 おはなし会」という

絵本の読み聞かせ&人形劇の会があって、

ウサビで、それを紹介してもらえないかなって思ったのよ！」



わりと手軽にウサヒを使う登坂ひかるさん。

(ウサヒの適した使い方を心得ている)

中の人「へー、そんなのやってるんですね。」

登坂さんがお話しするんですか？」

登坂さん「朝日町では「ぶなの実」という読み聞かせの会があって、

毎月、図書館のおはなしルームで、読み聞かせのイベントをしているのよ。

しかも、ぶなの実は、なんと40年近く続いている会なの。」

ぶなの実の発足は1974年(昭和49年)。

公民館の館長だった佐直さんという方がはじめた会なのだそうです。

登坂さん「山形県内の「読み聞かせ」サークルとしても

パイオニア的存在なのよ！そのへん重点的に紹介して欲しいわね。

ちなみに私・登坂ひかるが、ぶなの実3代目会長よ。」

中の人「なるほど、なるほど、了解しました会長。」

登坂さん「あ、取材記事的に、2人だけではさびしいかと思って、

一緒に「ぶなの実」をやっている梅津さんにも来て貰ったわ！」

ウサヒ読者だけに、必要になるであろう展開を心得てる。

梅津さん「梅津透子です。10年前に東京からIターンでやってきたの。

今日はどうぞヨロシクね。」



梅津さん。朝日町の自然に惚れ込み移住してきたそうです。

(なるほど、先ほどから隣に座っていたレディーは、共演者だったわけか)

中の人「わかりました。では、さっそくウサビで取材始めましょう！」

というわけで、

今回は、桃色ウサビの朝日町探検は

読み聞かせサークル「ぶなの実」取材することになりました……

……なるはずでした……

しかし、ここでまさかのハプニングが……

中の人「……あれ？ウサビがない！」

先程まで、(斬新な状態で)ソファーにおいてあったウサビが消えたのです！！

子どもたち「おい、着ぐるみ落ちてたぜ！！！」



ちょっと目を話したスキに

子どもたちにさらわれていました…

子どもたち「どこを塞ぐと見えないか実験しようぜ！！」

ウサビ「や、やめてー。。」



残酷な実験が繰り広げられる

(本物のウサビを見つけても、こんなことはしないでね)

ウサビ「た、助けて中の人！！」

身内に助けを求めるウサビ。

中の人「…どうせなら、カラダも着てみるか？」

ウサヒ「敵が身内にいた！！」

桃色ウサヒは設定上、ウサヒと中の人とは別人格ということになっています。

中の人のお想いと、ウサヒの気持ちは、必ずしも一致しません。



装着中



装着完了！！完成「つちゃこいウサヒ」

(つちゃこいは、コチラの方で「小さい」の意味)

中の人「ぜひ、ウサヒの中の苦勞を知って

これからは叩いたり、目を塞いだりはやめてくれ・・・(切実)」

中の人からのお願い

ウサヒ「ど、どうもー」



子どもたち「あれ…？なんか悪くない…ぞ。

可愛い…ウサビなのに…」



まさかのベストフィットに大人気のウサビ

それを見て中の人は、

中の人「(あれ、なんかコレまずいな…

ぜったい、僕が中に入るより可愛いって言われてる……)」

と、心の中で軽く嫉妬するのです……

気をとりなおして、中の人ウサビを装着。

ウサビ「お待たせ～」

登坂&梅津「まってたわよー！」





すでに準備万端の2人

ウサヒ 「おお、手になんかついてる！！」

登坂 「これが、6月9日の演目で使うカエル人形よ！」

梅津 「まずはじめに、

おはなし会ではどんな演目があるか紹介していきましょうね！」

というわけで、ここから、本気の「ぶなの実」紹介が始まるのでした！

次回へつづく…

< 次回予告 >

大きすぎる絵本、オリジナルハツ沼七不思議 DVD、

読み聞かせの老舗団体の驚異の活動が明らかに！

図書館の最深部、おはなしルームとはいったい??

次回 **ウサヒ**読了「おはなしルームのぶなの実編 その2」